

提言 2 生徒の個性・適性・志向性に応じた多様な学びが追求できる、主体的学習を促す高校づくりを推進する。 [骨子]

「しまね留学」を進め魅力化に取り組んでいる 19 校以外の高校においても、生徒数の減少により、この 20 年間で 1 校あたりの学級数は大きく減少している。島根県の公立高校の入試倍率は 0.96 倍（平成 29 年度入試）と全国平均を下回っており、中学生の学習意欲に影響を与えているとの危惧も聞かれる。高校入試の倍率（定員）操作によって中学生の学習意欲を変化させることは、言うまでもなく本末転倒である。高校進学を選択することは、義務教育を終えた子供たちが人生で初めて行う「主体的な進路選択」である。中学校においては、その重要な意味を踏まえた進路決定となるよう進路指導を行なっているところであるが、「近いから」「人も行くから」「特に目的はないけど」「なんとなく」といった消極的な動機であっても高校に進学できてしまう進路選択環境には、やはり一定の課題があると言わざるを得ない。

県内の中学生が自らの個性・適性・志向性を見つめ、将来のなりたい自分に向かって夢を叶えられそうな学びの場をできるだけ多様な選択肢の中から追求することができ、その結果、高校での主体的学習の出発点となる、そのような進路選択環境を整えるためには、高校側が、それぞれの特色を中学生に向かって発信する必要がある。

1 求める生徒像の確立と入学者選抜制度改革

- ・全ての県立高校において、育てたい生徒像に基づき、教育課程を編制し、求める生徒像を明確にすることにより魅力化・特色化を図ることが重要である。
- ・各高校が中学生に向けて、「育てたい生徒像」「教育課程」「求める生徒像」を丁寧にわかりやすく情報発信する。
- ・中学校の校長、進路指導・教務担当教員へも情報発信を行う。特に専門高校はこれまで以上に説明機会を設ける。
- ・推薦入試において、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働する態度など真の学力を適切に評価する選抜方法の工夫を進める。一般、推薦入試の募集定員を各校の特色を打ち出した割合で設定する。

2 特色ある学科を設置して、主体的な学びを推進する。

- ・普通科系、職業系ともに「個性・適性・志向性」に応じた進路選択が可能となる学びの体制を整えることが求められる。

(1) 普通科系学科

- ①SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）のように高度な科学学習を推進することで高い自然科学的知識・技能を育成し、将来科学研究等の分野において国際的に活躍する人材を育成する学科
- ②島根の地理、歴史、文化やこれらに関わる遺跡・史跡、古文書、考古学的資料に直に触れ、高度な人文科学的資質能力を育成し、将来関連分野において活躍する人材を育成する学科
- ③現在のSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）のように高度な語学力と国際的視野を身につけ、将来、海外の大学で学ぶなど大学段階での留学を志向する人材を育成する学科

(2) 職業系学科

- ①大学・企業等との連携による先進的で高度な知識・技能の体験や、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成するSPH（スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール）の指定を各専門分野別（農業、工業、商業、水産）に目指す。
- ②生産、加工、販売までの工程を総合的に学び、起業家精神を育てる6次産業科やAI（人工知能）技術に対応する学科の設置。またはそうした授業科目を近隣の専門高校間で共同開講する等の工夫。
- ③進学を希望する生徒に対応した多様な科目開設と補習体制の充実

3 学びのセーフティネットを構築する。

- ・入学後に学習内容と自らの適性や能力との間のミスマッチが判明したり、途中で進路希望の変更が生じたりする。
- ・家庭環境や社会環境の変化等によって進路を変更する場合もありえる。
- ・各高校が思い切った特色ある教育課程をもつためには、他方で入学後の科目選択、学科変更、転校などに柔軟に対応できる「学びのセーフティネット」も備えておくことが必要であり、高校入試の在り方とも関連して、検討しておく必要がある。